

新学習指導要領改訂に伴う 外国語（英語）・外国語活動について

1 新学習指導要領における外国語教育（H32年度～）

○5・6年（教科型） 年間70単位時間（週2コマ程度）

- ・「聞くこと」「話すこと」に加え、段階的に「読むこと」「書くこと」が加わる。英語によるコミュニケーション力の基礎を養い、中学校への円滑な接続を図る。
- ・「外国語活動」が「英語」として教科化される。
- ・教科書（市町村ごとに採択した検定教科書）が配布され、成績が付く。
- ・扱う単語数は600～700語程度。

○3・4年（活動型） 年間35単位時間（週1コマ程度）

- ・「聞くこと」「話すこと（やり取り）・（発表）」を中心とする。
- ・外国語に慣れ親しませ、学習への動機付けを高める。
- ・副読本使用（教科ではないので検定教科書ではない）

○中学校

- ・授業を英語で行うことを基本とする。
- ・「やりとり」や「発表」といった英語をつかって考えを伝えるという学習が増える。
- ・単語数は、現行1200語から1600～1800語程度に増える。

2 2年間の移行措置について（H30・31年度）

○5・6年

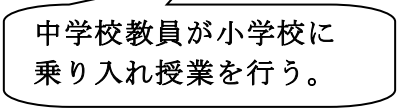
- ・3.5単位時間＋1.5単位時間（5.0単位時間）を確保し、外国語活動の内容に加えて外国語科の内容を扱う。
（移行期間教材「We Can！」を従来の「Hi Friends」に加えて使用）

○3・4年（活動型）

- ・新たに1.5単位時間を確保し、外国語活動を実施する。
（移行期間教材「Let's Try！」を使用）

3 外国語教育の指導体制について

○ 高岡市の授業形態

指 導 者	該 当 校
英語専科教員	5 校
英語専科教員 ALT（外国語指導助手）	2 校
非常勤英語専科教員（県派遣） 担任	5 校
ALT（外国語指導助手） JTE（市派遣小学校外国語活動講師） 担任	9 校
ALT（外国語指導助手）＋担任 または JTE（市派遣小学校外国語活動講師）＋担任	2 校
中学校英語科教員（6年生のみ） 	2 校
ALT＋JTE＋担任（3～5年生）	
JTE（市派遣小学校外国語活動講師）担任	2 校

4 教育課程編成について

- ・ H30 年度については、各学校の実態に応じて教育課程を編成する。
（総合的な学習の時間、委員会・クラブの時間、短時間学習（モジュール学習）
1 コマ増やすなど）

5 現状での成果と課題

- ・ 英語専科教員、中学校英語教員が小学校で行う「乗り入れ授業」については、学校から「子供が生き生きと学習に取り組んでいる」との声が寄せられている。また、担任の負担軽減にもつながっている。
- ・ 上記の教員の配置のない学校では、ALT（外国語指導助手）、JTE（市派遣小学校外国語活動講師）、担任の3人で授業を行っている。打合せ時間の確保が難しいことや、評価の問題、担任の負担が大きいことが課題となっている。今後は、英語専科教員の増員など専門的な指導体制の充実が求められている。